

## ■学校経営のポイント

### 子どもを守るのは大人の責任

小島 宏

最近、子どもの監禁事件、誘拐未遂事件、行方不明などの報道が相次いでいる。保護者も「わが子に何かあったら……」と不安を感じ、学校も「登下校中は大丈夫か」と見直しをしているところであろう。

#### 大人の責任で子どもを守る

子どもが事故や事件に巻き込まれると、痛ましい結果になることが少なくない。その原因は様々であるが、大部分は大人の責任と考えるべきである。大人（学校、保護者、地域住民、警察署など関連機関）の目が行き届き、子どもを守る強い意識に実際の行動が伴えば防ぐことができる。

#### 学校の取組を再点検する

第一は、学校の「子どもを守る体制」を見直すことである。登下校中の交通安全、危険箇所、不審者や犯罪者の誘拐や猥褻行為などについて、子どもの生命・身体の安全を守る視点から、緊急に再点検を要するところである。その際、関係教諭だけでなく、校長以下全教職員で当たり、実情に基づいて修正し、共有化することが重要である。

#### 教職員が危機意識を持って行動する

第二は、教職員が危機意識を持って、組織的に、指導と行動を継続することが重要である。事件が続くと一時的に関心が高まり指導と行動に力が入るが、しばらくすると忘れられ、いつしか対応がおざなりになることが少なくない。「天災」と「事件・事故」は忘れた頃にやってくる。

#### 子どもに十分指導する

第三に、安全な登下校、家庭や地域での安全な過ごし方・遊び方などについて、指導することが求められる。その際、発達段階に応じて、事例を挙げて臨場感のある指導を具体的に、平易に進めることが重要である。

特に、子どもだけの一人歩きや、知らない場所や知らない人に対する適切な観察や警戒心を指導し、危ないと思ったとき、危ない目にあったときは、大声を出す、近くの大人に助けを求めるなどの具体的な行動の仕方を教え、訓練しておくことが不可欠である。「危険予知判断」や「危機回避行動」の視点から、指導内容を見直すことが重要である。

#### 保護者に危機意識を持たせる

第四は、保護者に対して、子どもを危険から守るために「学校のしていること」を具体的に知らせ、理解を得る。その上で、知らない人にはついていけない、公園などでは一人で遊ばない、人がいないところにはいかない、夜間の外出は控えるなどについて、家族で話題にし、きちんと「安全についてのしつけ」をするよう求めることである。学校便りや保護者会の話題にもしたい。

保護者に危機意識を持ってもらい、保護者の責任として、「安全についてのしつけ」については、PTAなどにも協力を依頼し、活動の一部に加えてもらえるようにしたい。

#### 地域住民に協力を求める

第五は、地域住民の協力を求めることである。子どもを危険から守る意味から地域の存在を忘れてはならない。不審者が一番恐れるのは、「周りの大人の目」だそうである。学校便りなどを町会や学校の近隣住民にも配布し、「学校のしていること」や「協力してもらいたいこと」などを伝え、子どもを守る意識と行動を町中に広げたい。また、「子ども110番」「地域の子ども見守り隊」などボランティアや警察署にも協力を求め、町ぐるみで子どもを守り、不審者を封じ込めたいものである。

（こじま・ひろし＝（財）教育調査研究所研究部長）

●問題を本質的に解決するために役立つ情報を、100項目、Q&A形式で、簡潔・具体的に提供！

## 『不登校問題で困ったときに開く本』

【著】小野昌彦（宮崎大学大学院教授） A5判・164頁／定価2100円

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、無料FAX 0120-462-488をご利用ください（24時間受付・即日発送）